

子どもたちが、故郷で健やかに育っていくために!

敦賀市議会議員

豊田こういち レター



敦賀って素晴らしい!!

敦賀市の産業の柱である原子力発電所の長期運転停止により、地域経済は疲弊、人口減少も加速しています。人口が減少しても豊かに暮らす地域の仕組みを考えること、都市部と連携して交流人口、定住人口を増やすことが必要です。

敦賀市には言葉では伝えきれない魅力がたくさんあります。私は、子育てのまち敦賀、住み慣れた地域で安心して暮らせるまち敦賀を目指しています。

子育て、教育を絡めた地域づくり

子育て・教育移住

都市部では、子どもの足音や泣き声、保護者の叱る声を騒音として、近隣トラブルになるケースも少なくないと聞きます。敦賀市においても、周りを気遣いながら必死で子育てをされている方々がたくさんおられます。ただでさえ大変な子育てなのに、周りの目を気にしながらの子育ては、子ども、保護者ともに大きなストレスになります。近年、子どもを育てる環境を変えたいと考える子育て世代の保護者は多くおられ、私は、田舎での子育てをお勧めしています。敦賀市は、都市部、京阪神から子育て世代を誘致出来るポテンシャルを十分に持ち合わせています。子育て移住、教育移住を進めて、敦賀市の活性化に努めていきます。



ふるさと教育

教育に力を入れて優秀な子どもを輩出すると、高校もしくは大学で都市部に出てしまう、いわゆる教育のジレンマ。敦賀市も例外ではなく、優秀な子どもは、県外に出て帰って来ない傾向があります。私は、子どもたちが県外に出て進学、就職することは、外からふるさとである敦賀市を見ることが出来る良い機会であると考えます。急速に進むグローバル社会で生き抜くために、子どもたちを地元で留める努力をするよりも、子どもたちに、いろいろな世界を見せてあげたい、それこそが真の故郷教育であると考えます。敦賀市がグローバル教育の先進地になれるよう努めていきます。



なぜ敦賀市で議員になろうと…

たくさんの方に質問して頂いたので、お答えさせていただきます。

平成4年に大阪府枚方市にある府立牧野高校を卒業。全校生徒672名のうち男子で就職したのは私を含めて2名。他の生徒は進学しました。

女子は19名が就職。その中にはとても優秀な生徒もいました。こんな豊かな時代に家庭の事情で進学出来ない生徒が他にもいることに驚きました。奨学金もありますが、「どうしても自分が働いて家計を助けなければ!」とみんな言っていました。女子の多くは就職説明会で泣いていたことを覚えています。

私は、それからトラックの運転手として必死で働きました。二十歳を過ぎて、トレーラー運転手として敦賀にも頻繁に行くようになり、会社の上司の薦めで妻と出会い結婚しました。

結婚後すぐに独立、大阪市で会社を営営しました。平成17年1月に金沢市を拠点としたインフォルを設立(平成25年譲渡)。大手通信会社とコンサルティング契約、業務委託契約を結び全国を飛び回っていました。

ゲーム会社とも業務提携し、会社は安定しました。その一方で、仕事ばかりの人生から家族と共に暮らしたいと強く思うようになり、知り合いの勧めで石川県野々市市のモデルハウスを購入することになりました。ちょうどすぐ近くにある野々市小学校もリニューアルして、長男が早翠幼稚園を卒園して新1年生になる絶好のタイミングでした。

モデルハウスに子どもたちも大喜びだったのですが、引っ越しが現実のものとなった時、長男と次男から、「どうしても敦賀に残りたい!」と懇願されました。この時、私は息子たちに故郷(ふるさと)というものを教えてもらいました。

その後、妻の故郷である敦賀市正田で空き家を購入し、**劇的ビフォーアフター**でリフォームして頂き、終の棲家を手に入れました。

そこからは、子どもとの時間を取り戻すために必死でした。子ども会、PTAと子どもとの活動をおこなうなかで、敦賀青年会議所と出会いました。たった2年間の活動(40歳で卒業のため)でしたが、青少年育成、まちづくりについて多くを学ばせて頂きました。

そして、青年会議所を卒業した平成26年12月に、我が子のため、「子どもたちのために敦賀市を良くしたい」と、敦賀市議会議員になることを決意。親戚もいない、同級生もいないなかで、最下位でしたが当選させて頂きました。

6月定例議会：一般質問

敦賀っ子の通学の現状と課題について

私の住む愛発地区には学校がありません。長男と次男はスクールバスで中郷小学校へ通わせて頂いています。

しかし、中郷地区、東郷地区、東浦地区の一部において、危険な通学路を自転車で学校まで通う子どもたち。そして、そんな子どもたちの帰りを心配されている保護者がおられます。

また、子どもの安全を考慮して、通学の送迎を選択したことによって、子どもの送り迎えが大きな負担になっている保護者も少なくありません。

なんとかスクールバスを運行して頂き、子どもたちの通学の安全を確保して欲しいと要望致しました。

これに対し、9月定例会で洲上市長から

現在、中郷地区を含め東郷地区、栗野地区等、市内全域のスクールバスの効率的な運用につきまして教育委員会のほうで調査しております。**冬場に間に合うように関係部局と連携して取り組んでいるところ**でございます。

と答弁頂き、子どもたちの通学の安全が確保されることと思っています。



9月定例議会：一般質問

小中学校の教育環境について

教育先進県敦賀市の教育関係者には、とても感謝している。更なる教育環境の向上を目指し、教育長は今後どのような義務教育のあり方を考えているのか、出来るだけ詳しくお聞きしたい。

これに対し、上野教育長から

現在既に小中一貫教育カリキュラムの研究に取り組んでおります福井大学教育地域科学部附属学園と本市教育委員会が小中一貫教育の研究を推進するための連携・協力に関する協定を結ぶ作業を進めている。(10月協定締結)

と答弁頂き、今後の義務教育のあり方を確認した上で、「敦賀市も人口減少局面に入っています。今後、クラス替えや選択肢の多い部活動、切磋琢磨できる教育環境を提供するには学校の統合が避けられない。学校によっては、複式学級の小中学校、老朽化が進む小中学校、特別支援学級の充実等、それぞれの問題を抱えています。**子供たちのことを最優先に、今後の義務教育のあり方も含めて再編計画を出してください。**」と要望致しました。

このことは、選挙前の新聞社による敦賀市議選候補者アンケートにおける、最も重要と考える市の課題で「小中学校の統廃合」と書かせて頂きました。



編集後記

議員にならせて頂き半年が経ちました。この半年の間にも会派視察、個人的な視察も含め、たくさんの市まちを見せて頂きました。そんななかで感じたことは、やっぱり敦賀市は素晴らしいってことです。

敦賀市には、立派な駅や病院、日本が誇る観光名所があり、交通の便もいい。特に子育て環境は、行政、教育関係者の方々の努力もあり本当に素晴らしいと思います。

しかし、この素晴らしい環境にも手を加える必要があります。例えば愛発地区等の郊外から敦賀病院にバスで行こうとすると、必ず乗り換えが必要になる点。敦賀病院の慢性的な医師不足。子育て環境においても高校での学力低下が指摘されています。

今後も素晴らしい敦賀市をもっともっと良く出来るよう政治活動をおこなっていきます。

与えられた職責を全うし、必ず敦賀市のため、市民の皆さまのためにも結果を出していきます。

豊田こういちレター Vol.1

2015年11月15日発行

発行責任：政志会 編集責任者：豊田耕一

(この広報紙は政務調査費で発行しています)

討議資料

子どもたちが、故郷で健やかに育っていくために!

敦賀市議会議員 **豊田 耕一**

〒914-0302 敦賀市疋田41号10番地 TEL.090-7116-9049

E-mail : artracing@me.com

ブログ : <http://inforu.meblog.biz>

豊田耕一 検索

